

中国の中学校理科教育の改善に関する調査

—中学校理科教育の現状についての理科教師の意識—

○胡学亮^A， 松本誠^B， 真貝健一^C○HU Xueliang^A， MATUMOTO Makoto^B， SHINGAI Kenichi^C埼玉大学大学院^A， 熊谷市立荒川中学校^B， 埼玉大学教育学部^C

中国 教育改革 理科教師 教師の待遇 理科教育目標 理科教育法

1. はじめに

中国は、1980年以後、経済改革・開放政策を行い、経済成長をしながら、経済構造を中心とした社会構造、文化意識、価値観の変化をしている。計画経済体制から市場経済体制への変換は、社会諸制度の変更をもたらし、そのなかで教育改革も次々と試みられている。

特に、1993年「中国教育改革と発展綱要」（以下「綱要」）が教育体制の改革綱領として発表され、今世紀90年代の中国の教育発展の目標、戦略、指導方針およびいろいろな重要な対策を出した。例えば、「教育の予算の増加」、「教師の質と待遇の向上」、「受験教育から資質教育への転換」等が注目された。これによって、国家教育委員会の制定した「9年義務教育全日制小・中学校課程方案」は、1993年9月の新学期から全国で実施された。その中で、理科科目の教育目標、内容なども調整された。

本研究では、理科教師、生徒に対する調査を通して、このような教育改革が進む中で中国の理科教育がどのような問題をはらんでいるのかを明らかにし、21世紀にむけて、中国の理科教育の改善の方法を検討する。

本発表ではまず中国の理科教師に対する調査結果について報告する。

2. 調査方法

- ①調査時期：1996年1月中旬～3月中旬
- ②調査対象：安徽省と河北省にある中学校39校の143名の理科教師。
- ③調査内容：中学校理科教育の目標、内容、指導方法、学習評価方法などの30項目。
- ④調査方法：質問紙法

3. 結果と考察

①教師の資質と待遇

・理科教師の若さ：回答者のうち、20代の理科教師が51.0%を、30代の理科教師が31.5%を占めている。そのうちの大部分は文化大革命

命期間中中断していた入試が再開して以来、厳しい大学入試を合格した者だといえる。

・教師の学歴不足：「中和人民共和国義務教育法」（1986）の中に、「中学校の教師は師範系の高等教育機関の専科卒業の学歴を備えなければならない」ことを明示した。しかし、今度の調査には、上述の学歴を備えない理科教師は13.3%を占めている。

・教師の待遇の悪さと社会的地位の低さ：本調査の中に「教師の待遇や社会的地位を満足しているか」という質問に対して、「満足していない」と答えた理科教師が86.0%を占めている。「もし人生をやりなおせるならばもう一度教師になりたいか」に対して、「そう思わない」と答えた理科教師の割合が51.8%である。これは中国の教育にとって、緊急の課題であろう。

②「受験教育」の依然としての深刻さ

・「理科教育の目標や内容の重視程度」の質問の中の「進学率」に対して「とても重要」と「ある程度重要」という答えはあわせて80.4%である。「高校への進学者を育てること」に対して「とても重要」と「ある程度重要」と答えた割合があわせて88.2%である。

・授業形態の質問の中の「教科書に沿った講義中心」に対して「よく使う」が64.3%で、「時々使う」が29.4%だと答えているのに対して、「観察・実験を中心とした授業」を「よく使う」が3.5%で、「時々使う」が34.3%である。

・「授業後の宿題の量」の質問に対して、「毎日出す」と「ほとんど毎日出す」を答えているのは60.3%である。一方、「1年間の観察・実験の回数」は1クラスで平均6.7回しかない。以上のデータから見ると「綱要」よる「受験教育から資質教育への転換」の傾向は今まのところあまり見られないといえる。

他の結果と考察は発表時に報告する。